

【 専門分野 】 地域・在宅看護論 10単位 315時間

I. 科目構築の考え方

地域・在宅看護論は、地域で生活するあらゆる健康レベルの人びととその家族や地域を理解し、地域における多様な場と看護の役割・機能を学ぶ。地域・在宅看護論では、看護の対象を個人、集団、地域に拡大し、ライフサイクル全期をとおしてあらゆる健康のレベルにある人びとの健康と生活の支え合いについて自助・互助・共助・公助の視点から地域を理解する。これらの概念や社会資源（システム）を学ぶ内容として地域・在宅看護概論を設定する。また、地域の特徴や資源を活用し地域で生活する人びとの健康問題や地域包括ケアシステムによる支え合いと地域住民の健康ニーズや多様な生活に応じた看護の提供について学ぶ。また、地域・在宅における社会資源は、保健・医療・福祉の連携・協働によって提供されるため、関連職種や関連法規を理解する内容として地域・在宅看護方法論を設定する。

II. 目的・目標

1. 目的：地域で生活するあらゆる健康レベルの人びととその家族を理解し、地域における多様な場での看護の役割や機能を理解する。
2. 目標
 - 1) 地域・在宅看護が必要になる背景および地域・在宅看護の目的や特徴を理解できる
 - 2) 地域の特徴、地域で生活する人びとの暮らしおよび健康問題が理解できる
 - 3) 地域で生活する人々の健康問題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解できる
 - 4) あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際を理解できる
 - 5) 地域・在宅看護に必要な看護技術を身につけることができる
 - 6) 地域・在宅療養を支える制度および他職種・多職種連携の意義とその方法を理解できる
 - 7) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と社会資源の活用について理解できる
 - 8) 地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴から、今後の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べることができる

Ⅲ. 科目の構成

| 専門分野 | 科目名 (時間) | 単元 (時間) |
|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|
| 地域・在宅看護論 6単位 135時間 | 地域・在宅看護概論 (1単位 15時間) | 地域・在宅看護の対象 (2) |
| | | 地域・在宅看護が必要な社会背景と在宅看護の変遷 (2) |
| | | 地域・在宅看護の定義・目的 (2) |
| | | 地域・在宅看護における看護師の役割と地域包括ケアシステム (2) |
| | | 多様な場における看護の実際 (2) |
| | | 地域・在宅療養を支える制度 (2) |
| | | 地域・在宅看護における倫理的課題 (2) |
| | | 終講試験 (1) |
| | 地域・在宅看護方法論Ⅰ (1単位 15時間) | 暮らしと地域 (2) |
| | | 生活の場と健康支援 (2) |
| | | 地域で生活する人びとと暮らしの理解 (2) |
| | | 地域で生活する人びとの健康づくりの目標と取り組み (6) |
| | | 地域の特徴と防災 (2) |
| | | 終講試験 (1) |
| | 地域・在宅看護方法論Ⅱ (1単位 30時間) | 地域・在宅療養を支える制度 (12) |
| | | 地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携 (10) |
| | | 訪問看護制度と訪問看護ステーションのサービスのしくみ (4) |
| | | 地域・在宅看護実践の場 (4) |
| | 地域・在宅看護方法論Ⅲ (2単位 45時間) | 地域における暮らしを支える看護 (2) |
| | | 地域・在宅療養を支える看護技術 (24) |
| | | 地域での暮らしにおけるリスクの理解 (2) |
| | | 地域での暮らしにおける災害対策 (2) |
| | | 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 (14) |
| | | 終講試験 (1) |
| | 地域・在宅看護方法論Ⅳ (1単位 30時間) | 地域・在宅看護過程とは (2) |
| | | 地域・在宅看護の展開 (24) |
| | | 地域・在宅看護のマネジメント (4) |
| 地域・在宅看護論実習Ⅰ (1単位 45時間) | 地域で生活するあらゆる人びとの生活の理解 | |
| 地域・在宅看護論実習Ⅱ (2単位 90時間) | 身体・認知機能低下があり施設で生活する対象の看護 | |
| 地域・在宅看護論実習Ⅲ (1単位 90時間) | 在宅療養者の健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 | |

IV. 授業の概要 (シラバス)

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位 (時間) | 地域・在宅看護概論 1 単位 (15 時間) | 授業 形態 | 講義 | 開講 時期 | 1 年 前期 | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|----------------|---------------------------|----------|--------|----------|-----------|------|---|------|--|------|--|------|--|------|--|------|---|
| 講師名 所属 | 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 地域・在宅看護論では、地域で生活する人びとの暮らしの理解を深め、地域のあらゆる場で生活するあらゆる人びと、あらゆる健康レベルにある個人・家族、集団、地域を対象にした看護を実践する。地域で生活している人々は、様々な社会資源に支えられている。2025 年問題、2040 年問題の背景にある人口構造の変化、社会のニーズの変化を的確に捉え、地域・在宅看護を必要とする社会背景とそれを支える諸制度についての理解を深める。地域・在宅看護の目的とその必要性の理解し、地域・在宅における健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、または人生の完成としての能き死を支える看護の基盤を学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 地域および地域で生活する人びとの理解ができる 2. 地域・在宅看護が必要になる背景を理解できる 3. 地域・在宅看護の目的や特徴を理解できる 4. 地域・在宅療養を継続するための地域包括ケアシステムと在宅療移行支援を理解できる | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の展開 医学書院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文献 | 1. 国民衛生の動向 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 ※講義の欠席がある場合は課題を課す <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%;">筆記試験</td> <td style="width:15%; text-align:center;">○</td> <td style="width:25%;">レポート</td> <td style="width:15%;"></td> <td style="width:20%;">技術確認</td> <td style="width:20%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td style="text-align:center;">○</td> </tr> </table> | | | | | | | 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | ○ |
| 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | 担当講師 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域とは 2) 生活とは・暮らしとは 3) 地域で生活する人びと (ライフサイクル) 4) 地域で生活する人びとの健康レベル 5) 多様な生活の場 | | | 講義 | 池ヶ谷 知美 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 2. 地域・在宅看護が必要となる社会背景と在宅看護の変遷 1) 地域・在宅看護が必要となる社会背景と根拠 (1) 人口構成の変化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|----|--------|--------|-----------------|
| | <p>(2) 国民の健康観・価値観</p> <p>(3) 在宅医療・介護の動向と社会保障費用の現状</p> <p>2) 在宅看護の変遷</p> <p>(1) 在宅医療・在宅看護のしくみ</p> <p>(2) 在宅看護の変遷</p> | | | | |
| 3 | <p>3. 地域・在宅看護の定義・目的</p> <p>1) 地域・在宅看護のめざすもの</p> <p>(1) 地域・在宅看護が提供される場</p> <p>(2) 暮らしを支える看護</p> | 講義 | 池ヶ谷 知美 | | |
| 4 | <p>4. 地域・在宅看護における看護師の役割と地域包括ケアシステム</p> <p>1) 地域包括ケアシステムとは</p> <p>2) 地域包括ケアシステムにおける他職種・多職種連携</p> <p>3) 地域包括ケアシステムにおける在宅移行支援</p> <p>4) パートナースhip</p> | | | | |
| 5 | <p>5. 多様な場における看護の実際</p> <p>1) 家庭で行う健康の保持増進</p> <p>2) 地域の人びとが支え合うコミュニティ活動</p> <p>3) 通院治療を必要とする人びとへの理解と支援</p> <p>4) 地域で療養生活を送る人びとへの理解と支援</p> | | | | |
| 6 | <p>6. 地域・在宅療養を支える制度</p> <p>1) 介護保険制度</p> <p>2) 訪問看護制度</p> <p>3) 障害者・難病に関する法制度</p> | | | | |
| 7 | <p>7. 地域・在宅看護における倫理的課題</p> <p>1) 在宅療養者・家族の権利保障</p> <p>(1) 自己決定権</p> <p>(2) 情報管理</p> <p>(3) 成年後見制度</p> <p>(4) 虐待の防止</p> <p>2) 療養者を支える家族に及ぼす影響</p> | | | | |
| 8 | 終講試験 | | | 試験（評価） | 単位認定者 池ヶ谷 知美 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位(時間) | 地域・在宅看護方法論 I 1 単位(15 時間) | | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 1 年 前期 |
|------------|---|---------------|-----------------------------|---|----------|----------|----------|-----------|
| 講師名 所 属 | 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年 | | | | | | | |
| 授業概要 | 地域で生活する人びとの健康問題を理解し、地域でどのような健康施策や事業が行われているか学びを深める。地域包括ケアシステムを理解し、地域で生活する人びとがあらゆる社会資源に支えられ生活していることを理解する。また、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と社会資源の活用について理解を深める。近年、自然災害が多発しており地域住民の安全確保やリスクマネジメントが重要である。嬉野市や出身地の地域特性や地域防災について理解を深める。 | | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 地域の特徴、地域で生活する人々の暮らしが理解できる 2. 地域で生活する人々の健康課題が理解できる 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる 4. 嬉野市の地域特性と防災活動の実際を理解できる | | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 II 地域・在宅看護の展開 医学書院 | | | | | | | |
| 参考文献 | 必要に応じて授業中に紹介する | | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 ※講義の欠席がある場合は課題を課す | | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | | |
| | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | ○ | | |
| 授業計画 | | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1 | 1. 暮らしと地域 1) 人びとが暮らす地域の多様性 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人口構成の多様性 ・地域の産業構造の多様性 ・地域の住民・文化の多様性 ・地域の人口密度の多様性 | | | | 講義 | | 池ヶ谷 知美 | |
| 2 | 2. 生活の場と健康支援 1) 生活（暮らし）とは何か 2) 生活の場と健康支援の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・学校 ・職場 ・病院（施設） ・家庭 ・地域（コミュニティ） | | | | | | | |

| | | | |
|-----|--|--------|-----------------|
| 3 | <p>3. 地域で生活する人びとと暮らしの理解</p> <p>1) 出身地の地域の特徴や暮らしの様子を理解する</p> <p>演習課題：嬉野市および出身地の地域の特徴と生活する人びとの暮らし</p> | 講義・演習 | 池ヶ谷 知美 |
| 4～6 | <p>4. 地域で生活する人びとの健康づくりの目標と取り組み</p> <p>1) 地域住民の健康問題把握</p> <p>2) 地域住民の健康ニーズの抽出</p> <p>3) 健康支援活動（健康づくり）</p> <p>4) 地域住民の健康に関する地域の特徴から健康増進の企画</p> | | |
| 7 | <p>5. 地域の特徴と防災</p> <p>1) 人口構造と地域の特徴からみる防災の特徴</p> <p>2) 地域防災の実際</p> <p>3) ハザードマップの理解</p> | | |
| 8 | 終講試験 | 試験（評価） | 単位認定者 池ヶ谷 知美 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位（時間） | 地域・在宅看護方法論Ⅱ 1単位（30時間） | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 2年 前期 |
|-----------|---|---------------|--------------------------|------------|----------|----------|----------|
| 講師名 所属 | 糸山 尚美 嬉野医療センター MSW 福田 隆恵 嬉野医療センター 地域医療連携係長 山口 繁気 訪問看護ステーション一叶 看護師（管理者） 元田 三紀 訪問看護ステーション ease 看護師（管理者） 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師9年 | | | | | | |
| 授業概要 | 地域・在宅療養を支えるための制度について理解を深め、地域・在宅療養が様々な職種から支えられており、連携・協働されていること、またその意義と方法の実際を学ぶ。また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所および訪問看護ステーションをはじめとする事業所等のしくみを理解し地域・在宅のあらゆる場での看護の実際について理解を深める。 | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 地域・在宅療養を支える制度や社会資源を理解できる 2. 地域・在宅療養を支える多職種連携の意義とその方法を理解できる 3. 居宅介護支援事業所の役割と機能、介護支援専門員の役割が理解できる 4. 地域包括支援センターの役割が理解できる 5. 訪問看護ステーションのしくみを理解できる 6. 看護小規模多機能型居宅介護のサービスのしくみを理解できる | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | | 技術確認 | | |
| | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1 | 1. 地域・在宅療養を支える制度 1) 地域包括ケアシステム 2) 社会資源（自助・互助・共助・公助）の活用 3) 医療保険と介護保険 | | | 講義 | | 糸山 尚美 | |
| 2・3 | 4) 介護保険制度 (1) 介護保険申請 (2) 介護サービス利用までの流れ (3) 介護保険法と関係職種の機能 ① 介護支援専門員 (4) ケアマネジメント・ケースマネジメント | | | 講義 (事例) | | | |
| 4 | 5) 障害者を支える制度 | | | 講義 | | | |

| | | | |
|-------|---|----|-------|
| | (1)身体障害者手帳 (2)障害者総合支援法 | | |
| 5 | 6)難病療養者を支える制度 (1)難病の患者に対する医療費等に関する法律(難病法)や難病対策要綱 (2)医療費の公費補助 | 講義 | 糸山 尚美 |
| 6 | 7)子どもの在宅療養を支える制度 (1)公費負担医療制度 | | |
| 7 | 2.地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携 1)居宅介護支援事業所の役割と機能 2)介護支援専門員の役割と機能 3)地域包括支援センターの役割 (1)介護予防ケアマネジメント (2)包括的・継続的ケアマネジメント (3)総合相談 (4)権利擁護 | 講義 | 岩谷 望美 |
| 8 | 4)療養の場移行に伴う看護と連携 (1)外来・地域連携部門との看看連携 (2)入退院支援 | 講義 | 福田 隆恵 |
| 9 | (3)地域連携 ①多職種との連携・協議 ②地域医療連携パス | | |
| 10・11 | 5)地域・在宅看護における連携の特徴 (1)チームケア (2)地域包括ケア (3)医師との連携 (4)介護保険の社会資源との連携 | 講義 | 山口 繁気 |
| 12・13 | 3.訪問看護制度と訪問看護ステーションのサービスのしくみ 1)訪問看護の利用者と保険制度 2)訪問看護利用までの手順 3)訪問看護利用までの流れ(地域在宅Ⅱより) (1)介護保険を使った訪問看護利用までの流れ (2)医療保険を使った訪問看護利用までの流れ (3)入院治療から在宅療養へ移行する場合の訪問看護利用までの流れ (4)主治医による訪問看護指示書の発行 | 講義 | 元田 三紀 |

| | | | |
|-------|---|--------|----------------|
| | <p>4. 看護小規模多機能型居宅介護のサービスのしくみ</p> <p>1) 看護小規模多機能型居宅介護のサービスの特徴</p> <p>2) 看護小規模多機能型居宅介護の対象</p> | | |
| 14・15 | <p>5. 地域・在宅看護実践の場</p> <p>1) 住まいで提供される看護</p> <p>2) 通所サービスの場で提供される看護</p> <p>3) 短期入所サービスの場で提供される看護</p> <p>4) 通所・短期入所・訪問サービスの場で提供される看護</p> <p>5) 施設サービスの場で提供される看護</p> | 講義・演習 | 岩谷 望美 |
| | 終講試験 | 試験（評価） | 単位認定者 岩谷 望美 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位（時間） | 地域・在宅看護方法論Ⅲ 2単位（45時間） | 授業 形態 | 講義 演習 | 開講 時期 | 2年 後期 | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---------------|--------------------------|----------|----------|----------|----------|------|---|------|---|------|--|------|--|------|--|------|--|
| 講師名 所属 | 山口 繁気 訪問看護ステーション一叶 看護師（管理者） 元田 三紀 訪問看護ステーション ease 看護師（管理者） 山口 善子 合同会社 A-PLUS 霜村 健 肥前精神医療センター看護師 柏原 史弥 長崎川棚医療センター看護師 竹ヶ原 陽子 長崎川棚医療センター看護師 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師9年 上野 敏幸 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師7年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 地域・在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」とは何かを考え、地域で生活する人びとへの看護の実際を学ぶ。地域・在宅療養の場での日常生活援助技術・療養管理指導・教育、医療管理を必要とする療養者への看護を理解する。さらに、地域・在宅看護における援助の方法や工夫点を理解し、療養者の生活や暮らしの場で看護を提供する際の留意点を学ぶ。 また、あらゆるライフサイクルや健康段階にある療養者への地域・在宅看護の実際や移行支援の実際を学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 地域における暮らしを支える看護について説明できる 2. 地域・在宅療養を支える看護技術が実践できる 3. 地域での暮らしにおけるリスクや地域での暮らしにおける災害対策を説明できる 4. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行の実際を説明できる | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文献 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>技術確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table> | | | | | | | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | |
| 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | 担当講師 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 地域における暮らしを支える看護 1) 暮らしを支える看護とは (1) 暮らしの環境を整える看護 (2) 地域における家族への看護 (3) 地域におけるライフステージに応じた看護 | | | 講義 | 岩谷 望美 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2～5 | 2. 地域・在宅療養を支える看護技術 | | | 演習 | 岩谷 望美 | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|-------|---|----|-------|
| | 1)在宅看護技術（日常生活援助技）の応用 (1)食生活・摂食嚥下 (2)排泄 (3)清潔 (4)移動・移乗 | | |
| 6～8 | 2)日常生活援助や療養管理指導・教育の実際 (1)暮らしにおける呼吸・循環とその援助 (2)創傷管理に関する地域・在宅看護技術 (3)与薬に関する地域・在宅看護技術 | 演習 | 岩谷 望美 |
| 9・10 | 3)医療管理を必要とする療養者の看護 (1)胃瘻・経管栄養法 (2)在宅中心静脈栄養法 (3)人工呼吸器管理 (4)在宅酸素療法 (5)疼痛管理・緩和ケア | 講義 | 山口 繁気 |
| 11・12 | 4) 初回訪問 (1)訪問のための事前確認事項 (2)訪問のための契約書 (3)訪問時のマナーと留意点 5)初回訪問時における訪問看護師の役割 (1)初回訪問時の状態確認 ①バイタルサイン測定 ②フィジカルアセスメント (2)療養者・介護者とのコミュニケーション (3)感染管理 | 演習 | 岩谷 望美 |
| 13 | 6)ICTを活用した健康管理、指導・教育 (1)ICT活用推進の背景 (2)スマートフォンアプリ、ウェアラブル計測機器による健康管理 (3)ビデオ通話システムにおける地域・在宅療養者の見守りシステム、テレナーシング (4)オンライン診療 ①医師との連携 (5)施設間連携と医療機能情報提供制度（医療情報ネット） ①医療機能情報提供制度（医療情報ネット）とは ②ピカピカリンク、あじさいネット | 講義 | 岩谷 望美 |
| 14 | 3.地域での暮らしにおけるリスクの理解 | 講義 | 元田 三紀 |

| | | | |
|-------------|--|--------|----------------|
| | 1)暮らしにおけるリスク 2)暮らしにおけるリスクの種類 3)できる限り安全に暮らしつづけるための援助 | | |
| 15 | 4. 地域での暮らしにおける災害対策 1)暮らしと災害 2)地域・在宅看護と災害対策 (1)災害への事前の備え (2)災害時の避難 (3)災害対策における地域・在宅看護の役割 | 講義 | |
| 16 | 5. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 1)慢性期療養者（脳血管疾患療養者） | 講義 | 岩谷 望美 |
| 17 | 2)認知症療養者 | 講義 | 山口 善子 |
| 18 | 3)終末期療養者 | | |
| 19 | 4)子どもの療養者 | 講義 | 上野 敏幸 |
| 20 | 5)精神障害者 | 講義 | 霜村 健 |
| 21 | 6)難病の療養者 ①神経難病患者の特徴 ②神経難病患者の看護の実際 ③神経難病患者の地域・在宅療養に向けての支援 | 講義 | 竹ヶ原 陽子 |
| 22 | ④筋ジストロフィー患者の特徴 ⑤筋ジストロフィー患者の看護の実際 ⑥筋ジストロフィー患者の地域・在宅療養に向けての支援 | 講義 | 柏原 史弥 |
| 23 (45分) | 終講試験 | 試験（評価） | 単位認定者 岩谷 望美 |

| 分野 | 専門分野 | 科目名 単位（時間） | 地域・在宅看護方法論Ⅳ 1単位（30時間） | 授業 形態 | 講義 | 開講 時期 | 2年 後期 |
|-----------|---|---------------|--------------------------|----------|------|----------|----------|
| 講師名 所属 | 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師9年 | | | | | | |
| 授業概要 | 地域・在宅療養の看護過程の特徴と一連の流れの理解し、あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際の理解を深める。地域・在宅療養者の目標を考慮し、地域・在宅看護に必要な日常生活援助や療養管理指導・教育の方法を理解する。地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴、社会のニーズから、今後の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べる。 | | | | | | |
| 科目目標 | 1. 地域・在宅療養の看護過程の特徴と一連の流れを理解できる 2. あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際の理解ができる 3. 地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴から、今後の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べるができる | | | | | | |
| テキスト | 1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院 | | | | | | |
| 参考文献 | 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 | | | | | | |
| 評価方法 | 詳細は別紙「評価計画」参照 | | | | | | |
| | 筆記試験 | ○ | レポート | ○ | 技術確認 | | |
| | 口頭試問 | | 授業態度 | | 出席状況 | | |
| 授業計画 | | | | | | | |
| 回数 | 講義内容 | | | 教授・学習方法 | | 担当講師 | |
| 1 | 1. 地域・在宅看護過程とは 1) 地域・在宅看護における看護過程 (1) 看護過程とその意義 (2) 地域・在宅看護における看護過程の基本 ・多様性 ・生活環境や家族への視点 ・地域への視点 ・時間的な広がり ・ストレスへの着目 ・多様な生活と価値観 | | | 講義 | | 岩谷 望美 | |
| 2 | 2. 地域・在宅看護の展開 1) 訪問看護で使用する記録 (1) 訪問看護指示書 (2) 特別訪問看護指示書 (3) 訪問看護計画書等 | | | | | | |

| | | | | |
|-------|--|--------|-------|----------------|
| | (4)居宅介護支援計画書（ケアプラン） | | | |
| 3 | 2)在宅における看護過程の特徴 (1)ICFモデルと地域・在宅看護過程 (2)地域・在宅看護の構成要素とその特徴 ①総合的機能をみる視点 ・疾患・医療ケア ・活動 ・環境 ・理解・意向 ②強みと弱みをみる視点 | 講義 | 岩谷 望美 | |
| 4 | 3)慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の在宅移行・在宅療養初期の支援 ①情報収集とアセスメント ・総合的機能を構成する4領域による情報収集とアセスメント ・地域のアセスメント | 講義・演習 | | |
| 5 | ②介護者の理解と家族支援 ・介護力の査定 ・要介護者を介護する家族の状況 ・在宅看護における家族看護のポイント ・家族介護者交流事業 | | | |
| 6・7 | ③在宅移行支援の看護（自宅退院へ向けて） ・看護問題の明確化 ・患者家族への指導・教育的関わりの計画立案 | | | |
| 8・9 | ・実施（ロールプレイ） ・評価 | | | |
| 10・11 | ④在宅療養初期の支援（訪問看護） ・看護問題の明確化 ・療養者とその家族の生活を踏まえた訪問看護計画の立案 | | | |
| 12・13 | ・実施（ロールプレイ） ・評価 | | | |
| 14・15 | 3.地域・在宅看護のマネジメント 1)地域・在宅看護の展望と課題 (1)地域・在宅看護の現状 (2)地域・在宅看護の展望 (3)地域・在宅看護の課題 | | | |
| | 終講試験 | 試験（評価） | | 単位認定者 岩谷 望美 |